



群馬大学教育学部ニュース



けやき通信

Faculty of Education, Gunma University News. "Keyaki"

第10号 (2020年2月)

学部も大学院もバージョンアップ – 2020年の共同教育学部設置と教職大学院拡充 –

教育学部長 斎藤 周

2020年4月、全国で初めて、群馬大学と宇都宮大学は共同教育学部を開設します。また、それと同時に、本学では教職大学院を拡充します。これらの取り組みについて、Q & Aの形でご紹介します。

●共同教育学部

Q1 群馬大学教育学部がなくなるのですか？

A1 いいえ、なりません。群馬大学共同教育学部と名前を変えて存続します。

Q2 では「共同」というのは、ということなのですか？

A2 群馬大学と宇都宮大学が共同で教育学部のカリキュラムを組んで、学生が履修する授業の40%程度を両大学合同で行います。

Q3 学生は、宇都宮大学に授業を受けに行かなくてはならないのですか？

A3 その必要はありません。学生は、それぞれの大学に在りながら、他方の大学が提供する授業に出席します。

Q4 塾やインターネットで配信される授業のようなものですか？

A4 塾などの配信授業では録画された動画を各人が視聴する方式がとられているようですが、共同教育学部はそうではありません。ライブ（生中継）であり、画像も音声も双方向で送受信するので、学生が他方の大学の教員の姿を見ることができただけでなく、教員も他方の大学の学生の様子を見ることができます。テレビ会議同様の設備を使った授業なので、前橋のキャンパスと宇都宮のキャンパスの間で質疑応答やディスカッションができるのです。

Q5 実際に顔を合わせることはありますか？

A5 あります。両大学の同じ学年の学生が一堂に会しての合宿研修を計画しています。

Q6 共同教育学部になることに、どのような利点があるのですか？

A6 両大学にはそれぞれの経験の蓄積があります。また、両大学を合わせると教員の専門分野の幅が広がります。これを生かして、学生教育をいっそう充実させます。また、学生同士の交流を促進し、学生が知的な刺激を与え合いながら



学びを深める環境を作りだします。

Q7 カリキュラムの特徴は？

A7 小・中学生のどちらも指導できる力を獲得できるよう、各教科の専攻では小・中学校双方の1種免許を、教育・教育心理の2専攻では小学校1種と中学校2種免許を卒業要件にしました。小学校全教科の教科内容と教科指導法の授業を履修させることで、各専攻の分野だけでなく小学校教員としての専門性も高めます。

Q8 なにか新しい授業はありますか？

A8 最新の教育課題に取り組むために、外国籍の子どもの教育、SDGs, 防災教育, ICT教育, プログラミング教育等について、授業を新設します。

Q9 どのような教員免許を取れるのですか？

A9 小学校, 中学校10教科すべてとそれに対応する高校の教科, 特別支援学校5領域すべて, そして幼稚園の免許です。中学校10教科と特別支援学校5領域のすべてをカバーしている大学は貴重な存在であり, これも共同教育学部だからできることです。

●教職大学院拡充

Q1 教職大学院がどう変わるのですか？

A1 教職大学院を, 教職リーダーコース, 授業実践開発コース, 特別支援教育開発コースの3コースに拡大します。教職リーダーコースは現職教員のみを, 他の2コースは現職教員と学部新卒者等を対象とします。

Q2 修士課程はどうなりますか？

A2 修士課程は廃止します。修士課程での各教科と特別支援教

育の実践的指導力を高める教育の蓄積を、新しい教職大学院に引き継ぎます。

Q 3 各コースの特徴は？

A 3 教職リーダーコースでは、現職教員が学校マネジメントと児童生徒支援の両面を研究します。授業実践開発コースでは、各教科の授業と教科横断的な授業の実践力を高めます。特別支援教育実践コースでは、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室での指導力を高めます。

Q 4 指導体制はどうなりますか？

A 4 全教員が指導を担当します。授業実践開発コースでは、特に教科教育を専門とする教員が中心となって学生を指導し

ます。また、教職大学院で重要な役割を果たす実務家教員を、群馬県との人事交流により増員します。研究者教員と実務家教員が理論と実践を結びつけながら、学生（現職教員を含む）の実践的指導力向上に努めます。さらに、公立学校・附属学校の協力を得て長期にわたる実習を行い、各学生が課題の研究を進めます。

群馬大学教育学部と教育学研究科は、地域に力量の高い教員を送り出し続けることで、子どもたちの成長を支えたいと考えます。今後とも、ご支援・ご協力いただけるようお願いいたします。

公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める 2019」を開催

専門職学位課程長 山口 陽弘

2019 年 11 月 17 日（日）14 時より、群馬大学教育学部 C204 教室において、公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める 2019：小中連携の在り方を考える一学習支援体制の構築を例に一」（主催：国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会、共催：前橋市教育委員会）が、教育関係者約七十名の参加のもと開催されました。

教職大学院 10 期生の上田裕隆先生（館林市立第三中学校）から、大学院での課題研究とその中心となった実践について報告がありました。実践は勤務校でもある第三中へ主として進学する第七小学校との連携体制作りの在り方についての詳細が紹介され、2つの学校の児童・生徒、保護者、教員への事前調査から、中学校進学にあたっての児童生徒本人の「勉強のやり方がわからない」という不安は、教員および保護者にとっては学習習慣確立にむけた指導・支援への不安と通底することを確認した上田先生は、これらの不安を一元的に解消する実践の柱として「学習方略の指導」を据えました。これを具体化する視点として、「児童・生徒の学習習慣の定着を図るための取組」、「児童・生徒の学びの交流を図るための取組」、「職員の職能成長を図るための取組」が設定されました。

「学習習慣の定着」については、小学校、中学校それぞれの版の『家庭学習の手引き』や家庭学習通信『学びのコンパス』が代表的な手だてとして挙げられます。それらの特徴は、学校側からの一方的な「お願い」ではなく、児童・生徒が具体的に活用できるノートの例、「教訓機能」といった学習方略が具体的に紹介され、児童・生徒自身や保護者が自分で活用できるものになっていることです。従来は生徒指導関連が中心だった小・中学校間の連携を学習指導面に広げる手だてとしては、『学習支援連携シート』が新たに考案されました。「児童・生徒の学びの交流」としては、中学校の入学説明会後に授業参観を新たに設定し、さらにそこでの小学生の疑問や不安に中学生が応答する試みなどが、「職能成長を図るための取組」としては、中学校の校内研修で小学校教員が講師を務

めるなどが紹介されました。報告後半では、児童・生徒自身による学習方略使用頻度の向上、ノートの改善例など取組の成果の検証が紹介されるとともに、今年度に入ってから改善（会議、発行資料等の精選など持続可能な取組にするための方策）が紹介されました。

本学教職リーダー講座の山崎雄介教授からは、上田実践の意義として、スタンダードなどの枠組を単にあてはめるのではなく、児童・生徒や保護者への学習方略の提示など具体的な方策を講じたこと、ミドルリーダーとして学校内外の多様な関係者に働きかけつつ実践を進めていったこと、大学院での様々な授業や他の院生の研究から得たアイディアを消化して活用していることを挙げました。

小林淳一東部教育事務所長からは、上田先生の実践に対する高い評価とともに、他校へも一般性のある六つの点、①小中学校で系統性のある「手引き」が作成されたこと、②小中学校の保護者への包括的な助言体制、③小中学校の授業規律の段差を埋める工夫、④個に応じた学習支援体制（小学校から中学校への個人のプロフィールの引き継ぎ）、⑤アウトメディア week の協同実践、⑥教師・児童・生徒の相互交流の充実などが指摘されました。これらのきめ細かい試みが上田先生の実践の核であると同時に、他の場面での小中連携の在り方へも転用可能であることが述べられました。以上の報告をうけ、フロアとも活発な質疑が交わされ、本年度のシンポジウムは充実したものになったと思います。



上田裕隆先生（館林市立第三中学校教諭・教職大学院 10 期生）

釜山日本人学校におけるインターンシップについて

国際交流委員 新井 淑弘

教育の国際化に対応する教員養成の実現に向けて、本学では平成26年度よりバンドン日本人学校、台北日本人学校、釜山日本人学校、ハノイ日本人学校を協力校として海外インターンシップを実施し、平成30年度までの5年間で、延べ33名の学部学生・大学院生を送り出しました。実習生はそれぞれの国の文化に接しながら、またその中で生活する小・中学生の中で、教員として活動することで、国際社会に関して多くのことを学んでいます。

釜山日本人学校は2018年4月1日現在での児童・生徒数は小学部29名、中学部8名の計37名で、教職員は文部科学省派遣教員8名と現地採用の講師および職員、ボランティアにより構成されています。学校の規模が小さいので、複式学級での学習が多いことが特徴で、それを生かした児童・生徒の学びあい・教えあいの機会や個に応じた発展的な学習内容を課すことができているのも、この学校の特筆すべき点です。そのためか、こどもたちの学習意欲が常に高く保たれていることが観察できます。

学校での教育活動では、豊かな情操の育成に努めるとともに、視野の広い児童生徒の育成を図るため、より多くの現地の人々との交流の機会をつくっています。このようなことから、釜山日本人学校でのインターンシップの実施は、「グローバル化に対応できる教員」としての資質を涵養するものとな

ることが期待できます。

帰国後の報告会等では、「小学生のうちから国際感覚を持っていることに驚かされた」との感想や、また学校外の活動でも「韓国料理の食べ歩きや学校周辺の観光名所めぐりなどを通して、釜山の文化や環境に触れることができた」など異文化の環境に適応していく様子を聞くことができました。

釜山は日本と同じタイムゾーンになりますが、経度は前橋市より約10度西に位置しており、日の出は40分ほど遅くなります。7:30の出勤では1月ということもあり、まだ暗いうちからの活動となったことも、「海外での生活」を意識するきっかけとなったようです。

また、今年度は、包括連携協定を締結することができ、海外での教育実習も計画できるようになりました。



厳選した提示資料に興味津々の子どもたち

令和2年度採用 群馬県教員採用試験結果

学生支援委員 藤本 宗利

令和2年度採用群馬県教員採用試験の本学合格者は、現役113名、既卒33名、合計146名となりました。また、全体合格者に対する占有率は、小中特別支援学校35.9%、高等学校22.2%、全体では34.8%でした（表1）。校種により採用状況が異なるため、単純に比較できませんが、概ね昨年と同様の結果となりました。表2には、平成28年度から令和2年度までの群馬県教員採用試験志願者数（現役生）に対する一次・二次試験合格者数と合格率を示しています。令和2年度採用の一次試験合格率は88.3%、二次試験合格率は

73.4%となっています。二次試験の合格率は過去5年間で最高となりましたが、これに満足せずさらなる飛躍が期待されるところであります。

学生支援委員のみならず全教員で学生の進路支援に取り組んでいただくとともに、学生の皆さんにも、教員採用試験対策講座や講演会などの支援事業に、より積極的に参加していただく必要があると思います。今後とも、学生支援委員会の事業にご協力をお願い申し上げます。

表1：群馬県公立学校教員採用試験の校種別結果と占有率（既卒者含む）

令和2年度採用	全体合格者数	本学合格者数			占有率	
		現役生	既卒者	合計	現役生	全体
小学校	104	6	6	12	5.8%	11.5%
中学校	230	94	17	111	40.9%	48.3%
特別支援学校	50	8	7	15	16.0%	30.0%
小計	384	108	30	138	28.1%	35.9%
高等学校	36	5	3	8	13.9%	22.2%
合計	420	113	33	146	26.9%	34.8%

表2：群馬県公立学校教員採用試験志願者数（現役生）と合格率

採用年度	志願者数	一次試験合格者数 (志願者に対する合格率)	二次試験合格者数 (志願者に対する合格率)
令和2年度	154	136 (88.3%)	113 (73.4%)
平成31年度	187	146 (78.1%)	126 (67.4%)
平成30年度	179	149 (83.2%)	110 (61.5%)
平成29年度	170	120 (70.6%)	106 (62.4%)
平成28年度	176	125 (71.0%)	105 (59.7%)

研究科生の氏原さん日本教材学会研究奨励賞を受賞

2019 年 10 月 19 日、大学院教育学研究科教科教育実践専攻 1 年の氏原慎吾さんが青木悠樹准教授との共同研究論文「日周運動のバーチャル観察から視点移動の概念を理解するタブレット教材の開発と実践」において、日本教材学会 2019 年度研究奨励賞を受賞されました。Society 5.0 の時代に突入し、ICT 活用した教育を如何に展開するかが重要となっております。氏原さんは、タブレットで実現可能な仮想現実 (VR) を利用した中学校理科教材の開発を行い、見事、研究奨励賞を受賞しました。引き続き研究成果が期待されます。



表彰を受ける氏原さん（左から二人目）

クリエイティブ・クッキング・バトルで全国第 2 位

2018 年 12 月にクックパッド本社で開催された「クリエイティブ・クッキング・バトル」に教育学部の紫垣沙耶さん、藤井彩香さん、村上祥さん（いずれも 4 年生）が参加し、第 2 位に選ばれました。このイベントは、フードロスの解消を目的に、残り食材で工夫した料理を競うものです。3 人は、当日用意された食材を使って、うどんピザやこんにゃくステーキなど群馬にちなんだ料理で勝負しました。地元の魅力とフードロスを関連づけることで、味や見た目、工夫の点での高評価につながりました。（学校教育講座 新藤 慶）



受賞を喜ぶ 3 人

学生
の
活
躍

保健体育専攻の朝倉さんが群馬ダイヤモンドペガサスのドラフト指名を受ける

2019 年 11 月 15 日に吉報が届きました。『プロ野球独立リーグ群馬ダイヤモンドペガサスでは、本日のドラフト会議において下記選手を指名致しましたのでお知らせいたします。外野手：朝倉大貴（あさくらたいき）群馬県出身、右投左打、経歴：前橋高校→群馬大学』とのこと！野球が大好きな、夢を追い続ける朝倉くんの挑戦が始まります。保健体育の教員をはじめ、共に学んだ保健体育専攻の仲間たちは、これからもずっと彼のことを応援し続けたいと思っています。

（保健体育講座 木山 慶子）



ドラフト指名を受けた
朝倉大貴さん

A cappella Spirits バラード・ジャズ全国大会優勝！

2019 年 11 月 23 日に行われた A cappella Spirits バラード・ジャズ全国大会において、本学のアカペラグループ ho-op（フープ：教育：新井和佳奈さん、鈴木康希さん、清水拓巳さん、岸将広さん 医：高瀬開斗さん、赤井楓菜さん いずれも 4 年生）が優勝を果たしました。本大会は、2 回の予備審査を経て、全国大会という道のり。ho-op はその最終 10 チームの頂点に立ちました。本大会以外にも、主要な大会での受賞多数。メンバーが大切にしていることは、「ハーモニーや音を大切に、聴者に感動を与えたい。感情を身体全体で表現すること」と元気に語ってくれました。（音楽教育講座 山崎 法子）



大会で熱唱する ho-op の 6 人



群馬大学教育学部ニュース「けやき通信」 第 10 号（2020 年 2 月）

発行：群馬大学教育学部

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町 4-2 / TEL：(027) 220-7204 / URL：http://www.edu.gunma-u.ac.jp/cms/

・本紙に関するご意見ご感想等ございましたらお寄せください。